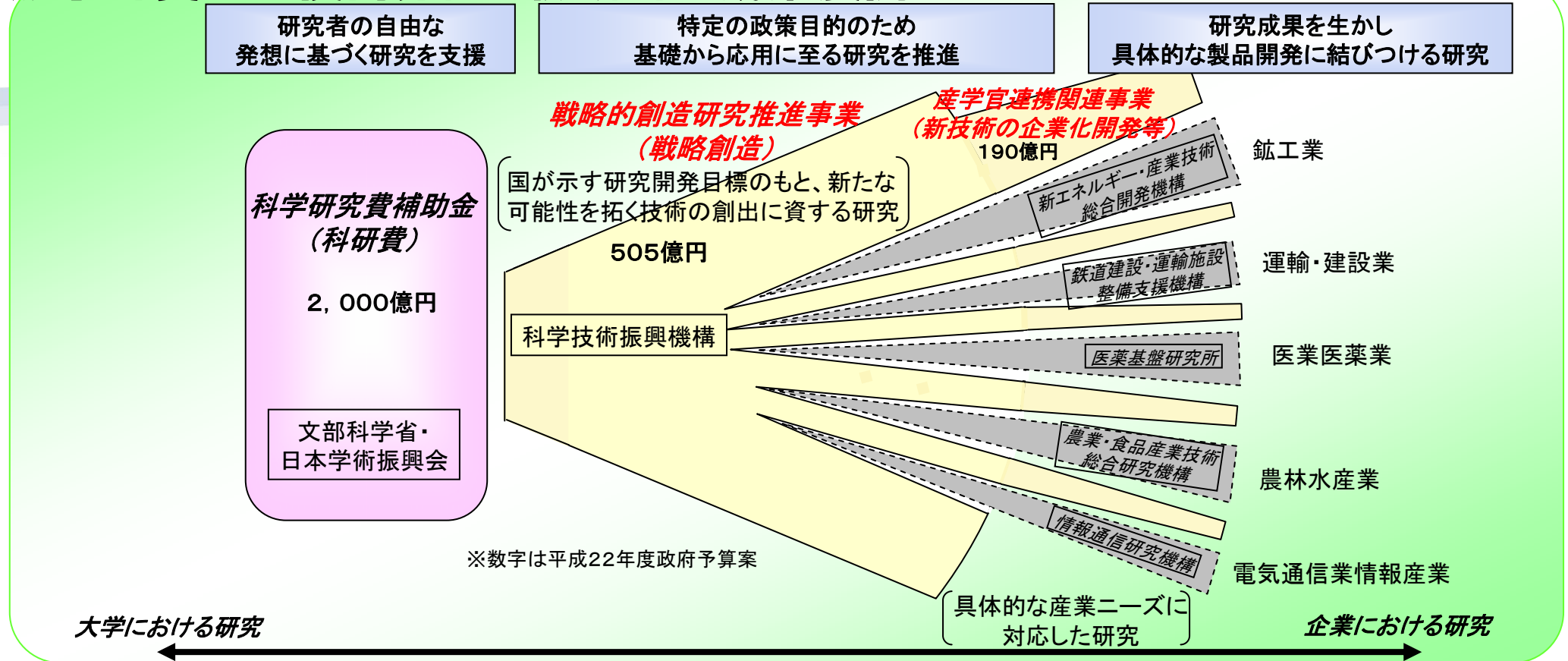


# 競争的資金の役割分担と協調的な成果展開



## 複数の資金配分機関による研究支援体制(欧米を例に)

- EU  
欧州委員会が、FP7(EUの第7次研究枠組み計画)に基づき、学術研究に対し配分を行う機関(ERC)を設立(2007年)
- フランス  
独立した資金配分機関として課題解決型のANRを設立(2005年)
- スウェーデン  
課題解決型と学術研究支援型を分けて機関を再編(VINNOVA、SRC、2001年)

国名	EU	フランス	スウェーデン
課題解決型研究支援	欧州委員会	ANR(国立研究庁) All(産業技術革新庁)	VINNOVA (イノベーションシステム庁)
学術研究支援	ERC (ヨーロッパリサーチカウンシル)	CNRS (国立科学研究センター)	SRC (スウェーデンリサーチカウンシル)

# 基礎研究費：科研費と戦略創造研究 2段ロケット方式

科研費：広い裾野を育て、学術的価値の高い研究

戦略創造：社会ニーズを踏まえた国の戦略目標を果たすための課題解決型基礎研究

世界トップ水準の研究環境を数年間可能とし、グローバルに通用する技術シーズを出す2段目ロケットとして設定

## 戦略的創造研究推進事業：

### 社会ニーズ・政策ニーズに基づく課題解決型基礎研究

[約500億円]

- ・国の戦略目標達成事業
- ・強力なナショナル・チーム
- ・「目利き」が無名時代の研究者を発掘・目標達成に向けたフォローアップ
- ・採択課題は科研費の1%程度
- ・1人当たり科研費の約10倍の研究費を5年間保証

例：低炭素化社会、iPS細胞、  
鉄系超伝導

## 科学研究費補助金(科研費)：サイエンス・コミュニティの自律的運用 [約2000億円] 多様性・独創性・裾野の広さ

- ・個々の研究者による自由な課題提起重視、サイエンス・メリットによる同業者評価
- ・6万人の研究者に1人当たり平均約300万円

# 目利き事例

## ■戦略的創造研究推進事業 CRESTの成果事例

研究総括 : 岸本忠三(大阪大学大学院生命機能研究科 教授)

研究領域 : 「免疫難病・感染症等の先進医療技術」



目利きにより採択



山中 伸弥  
(京都大学 教授)

～山中伸弥先生の研究課題採択時の経緯～

「当時、山中先生（奈良先端科学技術大学院大学助教授）も何ら研究費を貰っていませんでした。（\*）

私の領域名の「免疫難病・感染症」には分野違いだという人がいました。当時誰も、成熟した細胞が元に戻ることは面白いが起きないだろうと思って、手をつけていませんでした。

しかし、発想がユニークで、元気だし、きちんとした研究をしておられるので、総括の判断で採択したのです。

するとCRESTに選ばれたと云うことが評価されて、京大再生医科学研が教授として招聘しました。大学院生も増え人手が集まったので研究が加速しました。iPS細胞はそんな中から生まれたのです。」

CREST-12周年記念誌より

(\*)科研費 2百万円程度

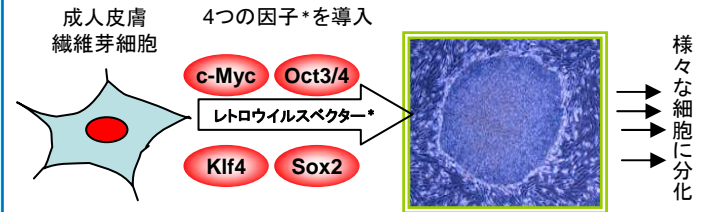
### 目利きの要件

- ◆ 自身が研究者としての成功体験者であること
- ◆ 若手も含む関連分野の研究者から信頼されていること
- ◆ 目的達成のため、強いリーダーシップを発揮できること

## ヒト人工多能性幹細胞 (iPS細胞) の樹立に成功～世界人類の再生医療、創薬・診断に大変革～

研究代表者: 山中 伸弥(京都大学 教授)

研究課題名: 真に臨床応用できる多能性幹細胞の樹立



- ◆ 倫理的問題や拒絶反応のない細胞
- ◆ 移植治療の実現に大きく貢献
- ◆ 有効で安全な薬物の探索に大きく貢献

- ・サイエンス誌2007年第2位、関連トピックス2008年第1位
- ・ローマ法王、米大統領も注目

**成果が出た後は、直ちに研究加速支援を実施**